

○卒業研究等評価指標のモデル

評価対象	評価項目	評価の観点	各学科で設定		加重記点係数	各学科で設定				
			対応する全学の教育目標上の資質能力	対応する学科のディプロマ・ポリシー		評価基準				
						レベル0 (最低限度の水準に達していない:0-59点)	レベル1 (最低限度の水準には達している、あるいは達していないが評価できる点がある:60-69点)	レベル2 (一定以上の水準に達しているが、不十分な点がある:70-79点)	レベル3 (特筆して不十分な点はなく、求められる水準にほぼ達している:80-89点)	レベル4 (求められる水準に間違いなく達している、あるいは求められる水準を超えている:90-100点)
論文	課題の設定	・先行研究を把握したうえで課題を設定できているか ・意義のある研究課題を設定できているか	問題発見力			・先行研究の把握や分析を行っていない。 ・設定した課題が、明らかに卒業研究で求められる水準にない。	・先行研究の把握や分析が不十分である。 ・設定した課題は先行研究で既に解決されており、取り組む意義が小さい。	・先行研究の把握や分析にやや不十分な点がある。 ・課題に独創性や社会的意義があるとは言えないが、卒業研究で求められる水準は満たしている。	・主要な先行研究を把握し、適切に分析したうえで、自らの問題意識に基づいて妥当な課題を設定できている。 ・課題に明らかな独創性や社会的意義があるとは言えないが、卒業研究としては十分な水準である。	・主要な先行研究を漏れなく把握し、適切に分析したうえで、自らの問題意識に基づいて妥当な課題を設定できている。 ・課題に大きな独創性や社会的意義があり、卒業研究で求められる水準を超えている。
	論理性	・考察に論理的な根拠が伴っているか ・仮説から結論に至るまでの過程が論理的に一貫しているか	論理的思考力			・考察に論理的な根拠が伴っていない。 ・論文全体の論理に一貫性がなく、破たんしている。	・考察に論理的な根拠が伴っていないことが多い。 ・根拠として示した資料やデータ等の解釈にしばしば誤りがある。 ・仮説から結論に至るまでの過程に、しばしば論理の不整合が見られる。	・概ね論理的な根拠を示しながら考察を行っているものの、根拠が不足していたり、根拠として示した資料やデータ等の解釈に誤りがある場合がある。 ・仮説から結論に至るまでの過程は、概ね論理的に一貫しているが、やや不整合が見られる。	・論理的な根拠を明示しながら考察を行っている。 ・仮説から結論に至るまでの過程が論理的に一貫しており、不整合はほとんど見られない。	・論理的な根拠を明示しながら考察を行っている。 ・仮説から結論に至るまでの過程が論理的に一貫しており、明快である。
	文章の構成	・書式のルールを守れているか(段落や見出しの設定等) ・規定の文章量を満たしているか ・論理展開に応じた構成になっているか	表現力			・指定された書式に全く従っていない。 ・文章量が大幅に不足しており、論ずるべき内容が大きく欠落している。 ・論文の体を成していない。	・指定された書式に従っていない記述が散見される。 ・文章量が不足しており、論ずるべき内容に不足が見られる。 ・論理展開と構成が対応しておらず、しばしば読み手の理解を妨げている。	・概ね指定された書式に従って記述されている。 ・規定の文章量を満たしていないが、論ずるべき内容は概ね押さえられている。 ・論理展開と構成が対応していないことがあり、読み手の理解を妨げる場合がある。	・指定された書式に従って記述されている。 ・規定の文章量を満たしており、論ずるべき内容に過不足がない。 ・論理展開と構成が対応しており、読み手の理解を妨げることはほとんどない。	・指定された書式に従って記述されている。 ・規定の文章量を満たしており、論ずるべき内容に過不足がない。 ・論理展開に応じた適切な構成になっており、読み手の理解を助けている。
	文章表現	・文章表現に誤りがなく読みやすいか	表現力			・誤字・脱字が頻出している。 ・明らかに読み手の誤解を招くような間違った表現が見られる。	・誤字・脱字がしばしば見られる。 ・読み手の理解を妨げるような不自然な表現が見られる。	・誤字・脱字がまれに見られるが、頻度は常識の範囲内である。 ・ぎこちない表現が時折見られるが、理解を妨げるほどではない。	・誤字・脱字は全くないか、ほとんどない。 ・総じて読みやすい文章が書けている。	・誤字・脱字は全くないか、ほとんどない。 ・全編に渡って文章の流れがスムーズで読みやすく、読み手の理解を助けている。
	引用の方法	・文献やデータ等の引用の仕方は適切か				・引用のルールが全く守られていない。	・引用の仕方に頻繁に誤りが見られる。	・引用の仕方に時折誤りがあるが、ルールを守ろうとする姿勢は見られる。	・引用の仕方にほとんど誤りがなく、あつたとしても軽微な内容である。	・引用の仕方に全く誤りがなく、正確である。
研究プロセス	計画の設定と実行	・適切な研究計画を設定できたか ・設定した研究計画を実行できたか	計画・実行力			・研究計画を立てることができなかった。	・複雑な点が散見されるものの、研究計画を立てることができた。 ・計画通りに研究を進めることができず、計画の修正もできないまま不完全に終わってしまった。	・概ね適切な研究計画を立てることができた。 ・計画通りに研究を進めることはできなかったが、一定の成果を得ることができた。	・適切な研究計画を立てることができた。 ・計画通りに研究を進めることができた。あるいは、計画の修正に迫られたとしても、修正を適切に行うことができた。 ・概ね見込んでいた成果を挙げることもできた。	・適切な研究計画を立てることができた。 ・計画通りに研究を進めることができた。あるいは、計画の修正に迫られたとしても、修正を適切に行うことができた。 ・計画に見込んでいた成果を十全に挙げることもできた。
	取り組み姿勢	・主体的に研究に取り組めたか	主体性			・研究に取り組もうとする姿勢が全く見られなかった。	・受動的な姿勢が目立ち、主体的に研究を進めようとする姿勢があまり見られなかった。	・時折受動的な姿勢が見られたものの、概ね主体的に研究を進めようとしていた。	・主体的に研究に取り組んでいた。	・自ら進んで課題に関連する知識を習得しようとするなど、研究をより良いものにしようとする積極的な姿勢が見られた。
	教員の指導	・自ら担当教員に進捗状況を報告し、必要な指導を受けたか ・担当教員からの指導を改善に役立てられたか	主体性			・自ら教員に研究の進捗報告をすることがなく、必要な指導を仰ぐこともなかった。 ・教員からの指導を改善に役立てることがなかった。	・教員への研究の進捗報告が不十分で、教員から十分に指導を受けることができなかった。 ・教員からの指導を十分研究に反映させることができなかった。	・十分とは言えないが、教員に進捗報告し、必要な指導を受けていた。 ・十分とは言えないが、教員からの指導を研究に反映させ、改善を図っていた。	・自ら教員に進捗報告し、必要な指導を受けていた。 ・教員からの指導を研究に反映させ、概ね必要な改善を行えた。	・自ら教員に進捗報告し、必要な指導を受けていた。 ・教員からの指導を適切に研究に反映させ、必要な改善を行えた。
発表 口頭試問	口頭説明	・口頭での説明は適切か	表現力			・研究内容を全く説明できない。	・説明が不十分で、聴き手が研究内容を理解することが難しい。 ・説明が冗長で、聴き手の理解を妨げている。	・説明に不十分な点があるが、聴き手が研究内容を概ね理解できる。 ・説明が冗長になることがあるが、聴き手の理解を妨げるほどではない。	・説明に過不足がなく、聴き手が研究内容を理解できる。	・研究内容を的確に要約できており、聴き手の理解を助けている。
	質疑応答	・質疑に対する回答は適切か	論理的思考力			・回答が論文の内容と全く整合していない。 ・回答に論理性が著しく欠けており、全く説得力がない。 ・質疑に対して全く回答を行うことができない。	・回答が論文の内容と整合していないことが多い。 ・しばしば論理的な回答をすることができず、説得力に欠けている。	・回答が論文の内容と整合していないことがある。 ・論理的な回答ができないことがあるが、概ね納得はできる。	・回答と論文の内容との不整合がほとんどなく、あつたとしても軽微な点である。 ・論理的な回答をすることができる。	・回答が論文の内容と完全に整合している。 ・論理的で明快な回答で、疑問を完全に解消することができる。